



「自分史」出版記念祝賀会 / 宮城次夫さん

昨年10月に沖縄で自費刊行した宮城次夫さんの「自分史-3つの国に住んで」出版記念祝賀会が三月一日ロス郊外ガーデナ市の中華レストランで開催された。県人会役員、歴史部員、青荘年部員始め、琉球舞踊・民謡グループなど宮城さんにゆかりのある人達140名が参加した。第一部の司会は県人会理事・呉屋君子さんが担当し、実行委員長・沢岷安和さん、県人会長・比嘉朝儀さん、宮城さんが顧問をしている玉城流冠千会・与那嶺恵子さん、島民謡教室・島袋盛市さん、野村流保存会・大城盛隆さんなどが祝辞を述べた。当日の渉外係は徳永(真境名)愛子さんが当った。

宮城さんは「自分史」出版完成までに3ヶ月間沖縄に滞在した。1956年にアルゼンチンよりロスアンゼルスに移住した時の三つの目標の一つに「自分史」出版があり、実現にこぎつけた喜びを「過去を踏まえて現在があり、将来がある。これまで奉仕してくれた緒先輩方パイオニヤー達に多大な感謝の意を表したい。」と述べた。



宮城さんは故玉城重盛さんと「北米沖縄人史」共同編集委員長を勤め、1980年実に45年ぶり出版に成就・実現した経歴がある。当日の参加者にその編纂に携わったとして、沢岷安和さん、ケン・神谷さん、天願幸子さんが紹介された。第二部の余興は桃原正男さんと安次富正信さんの司会で、カラオケ、サン

シンの演奏などがあり、賑わった。最後に宮城次夫さん作詞、島袋盛市さん作曲の「桜坂エレジー」を本人達のサンシン演奏にあわせて、皆で合唱して閉会した。

当銘貞夫

写真は悦びの宮城次夫・久子夫妻と与那嶺恵子沢岷安和さん。徳永愛子さん、玉栄エドワードさんと一緒に。